

教学半也



ご意見はコチラから

令和8年1月9日

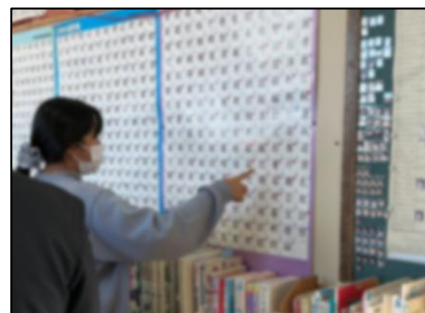
No.19

外国につながる児童生徒の
学習指導にあたる読者対象

第2回外国人児童生徒等指導研修会 令和7年11月10日

学習方法と学習環境の工夫

第2回外国人児童生徒等指導研修会を、I小学校で行いました。日本語指導教室での（取り出し）指導の様子と日本語指導教室を利用している児童が在籍する学級の授業を参観し、外国につながる児童生徒の指導・支援の一層の充実にむけて考えました。



I小学校では、13名の児童が日本語指導教室を利用しており、担当のN先生は2名の支援員と、個々の児童の学習指導・支援をしています。

N先生は、児童が「わかる・できる」実感を積み重ね、自信をつけることを大切に考え、個別の学習教材と学習の達成状況が見てわかる仕組みを工夫されています。例えば、児童一人一人に専用ボックスを用意し、中長期的に学習を見通して個別の教材をあらかじめ準備し、授業が始まると、児童がそのボックスの中から、教材を取り出し学習を始める仕組みを作り出しています。教室の壁面の掲示物は、学習の補助教材としてだけでなく、どこまで進んだかがわかるようにも工夫し、活用しています。右上の写真は、A児がその時間に学習した漢字に自分で決めた色のシールを貼っているところです。

【参加者の感想】

<日本語指導教室での取り出し指導の進め方について>

- ・個に合った教材の準備、教室環境を整えることが大切だと改めて思いました。
- ・複数名同時に指導するとき、進度は違っても取り組み方を統一すれば、指導できそうな気がしました。
- ・その時間に何をどのように進めればいいのかのパターンができていて見通しが持てて、子どもたちが安心して日本語指導教室に通うことができていると感じました。

<学習環境・その他全般について>

- ・（日本語指導教室には）フィードバックの仕組みが至る所に見られ、学ばせてもらいました。
- ・それぞれの児童が、完全にクラスに溶け込んでいてびっくりしました。日本語による教科の学習と楽しく学べること、子どもが安心していられる居場所づくりの大切さを感じました。
- ・在籍学級での指導で、どのようなことに留意する必要があるかについて考える機会になりました。



外国につながる児童生徒の増加にともない、複数名の児童生徒の日本語指導を同時に行わなければならない機会が増えています。I小学校の日本語指導教室の取組は、その困難さの解消におけたヒントになるのではないのでしょうか。

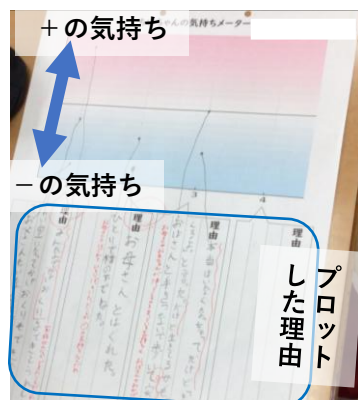
育成を目指す資質・能力を焦点化し、具現した子供の姿をイメージしているからこそ
～国語科の授業より～

第1場面と第4場面を比べながら、気持ちメーターを書いてみよう。



S小学校のI先生は、「ちいちゃんのかげお
おくり」（光村図書）を教材とした単元で、
「ちいちゃんの気持ちメーターづくり」を
言語活動に据えて、学びを進めていました。
単元の中で、物語の4つの場面における主人公
の気持ちを、気持ちメーター上にプロットし
てきた子供たち。上の吹き出しは、いよいよ
最後の第4場面について考える際、I先生
が子供たちに向けた言葉です。

なぜI先生は、本時プロットする第4場面だけではなく、第1場
面への着目を促したのでしょうか。



ちいちゃんの気持ちメーター

【キラリポイント！】

単元の目標を「登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像
することができる」と焦点化し、それを具現した子供の姿をイメージしていたI先生だからこそ、複
数の場面への着目を促す発問ができたのだと思います。本時、Sさんは、第4場面のプロット後、空
欄だった第1場面のプロットとそう考えた理由を記入し始めました。授業後、Sさんに第1場面を記
入した理由を問うと「だんだんわかってきたから」と答えてくれました。場面を結び付けて気持ちの
変化を想像することができたSさんの学びの姿も、その学びを支えたI先生の適切な支援も、共に
キラリと光っていました☆

「確かめたい」「やってみたい」がすぐそこに

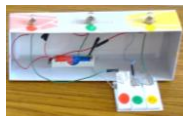
～理科の授業より～

K小学校は、子供の自己調整力の育成をねらいとして、学年1回を目安に単元内自由進度学
習を実施しています。先生方は子供の実態と学習内容から、学習環境や学習カードの工夫を重
ねています。第3学年「豆電球に明かりをつけよう」第4学年「電流のはたらき」（信州教育
出版社）における学習環境を紹介します。

【図1】事象に触れられる



スイッチONで
蛍のお尻が光る



押すスイッチに
よって点灯する
豆電球が変わる

教師自作教材が並んでいる

【図2】いつでも実験できる



簡易検流計がセットされ
いつでも何度でも子供が
確かめることができる

【図3】学びを活用した
「ものづくり」ができる



様々な材料や道具が
用意されている

【キラリポイント！】

【図1】は、子供が自然の事物・現象に関心をもち、問いが生まれるきっかけとなりそうです。
Aさんは、自分のタイミングで【図2】へ行き、自身の追究を見直していました。Bさんは、【図
3】から必要な材料を取り、小さな扇風機をつくろうと考えていました。

理科は、自然の事物・現象を学習対象にしています。学習対象に関わる中で生まれた問いを解決
しようとするとき、子供はどのようなことを「確かめたい」「やってみたい」と思うでしょうか。
学習環境づくりは、児童理解と教材研究から始まります。K小学校の実践には、学習形態、学校規
模に関わらず、小学校理科で目指す問題解決の力の育成につながるヒントがつまっています。